

応用社会学専攻（修士課程）

【教育研究上の特徴・目的】

本専攻には社会学、人類学・表象文化論、歴史学、地理学・民俗学という多岐にわたる研究領域がふくまれている。本専攻の特徴は、これら多様な領域からのアプローチによって、人類の社会的・文化的活動を総合的に研究してゆくことにある。

教育基本方針

甲南大学大学院人文科学研究科応用社会学専攻は、応用社会学の分野における研究能力や、高度の専門性が求められる職業を担う卓越した能力と、優れた倫理観と品格をもった人材を養成します。そのなかで、【修士課程】では、「高い研究能力とその基礎となる豊かな学識をもった人材の養成」を教育の基本方針としています。また、【博士後期課程】では、「学界の発展に貢献するだけでなく、優れた倫理観と品格をも併せ持った研究者、高度専門職業人の育成」を基本方針としています。

修了認定・学位授与の方針

甲南大学大学院は、大学院学則第1条に定める、甲南大学の教育精神に基づいて育成された一般的及び専門的教養を基盤として、学術の理論と応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、人類文化の向上発展と社会福祉の増進に貢献することを目的としています。

人文科学研究科応用社会学専攻においては、包括的な理論と精緻な資料・文献の分析に基づく研究によって、研究者又は高度専門職業人として必要な研究能力を身につけ、高度な倫理観を備えた人材の育成を教育目標としています。課程の修了にあたっては、本研究科の定める期間在学し、本専攻の定める課程修了に必要な単位を修得のうえ、必要な研究指導を受け、学位論文等の審査及び最終試験に合格した者に修士(社会学)の学位を授与します。

【修士課程】

- (1) 社会学、文化人類学、歴史学、地理学、民俗学に関して、研究を展開する基礎的能力、また、専門的な業務に従事できる技能を身につけています。
- (2) 専門的な学識と技能の修得によって得られた広い視野と高い倫理観を備えています。
- (3) 専門領域の基礎力並びに社会人としての基礎力の証左となる修士論文等を執筆する能力を有しています。

教育課程編成・実施の方針

人文科学研究科応用社会学専攻では、学位授与の方針に掲げる能力・資質等を修得させるために、必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習を適切に開講します。また、学位論文等の作成に対する指導を行います。加えて、修了認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

カリキュラムは、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を検証することにより、組織的かつ定期的に見直し・改善を行います。

教育内容、教育方法、評価については以下のように定めます。

【修士課程】

1) 教育内容

社会学、文化人類学、歴史学、地理学、民俗学の各研究領域に関し、高度専門職業人、又は自立した研究者として必要な能力を習得するため、資料分析と文献調査についての基礎的な研究方法を習得できる教育課程に加え、総合的・組織的な研究指導体制のもとで、広い視野に立った学識と高度な倫理観を身に付ける、専門的知識・技能を習得する教育課程を編成し、実施します。

2) 教育方法

- (1) 上記に掲げた教育内容を、授業及び研究指導によって行います。
- (2) 授業は、講義、演習のいずれかにより、又はこれらの併用により実施します。
- (3) 研究指導は、演習や個別指導により実施します。

3) 評価

- (1) 単位の認定については、大学院学則第9条に基づき、筆記試験、口述試験、報告等及び各科目のシラバスに定める方法によって学期末又は学年末に評価します。
- (2) 修士論文及び修士論文に代わる研究成果物の審査並びに最終試験は、専攻の定める審査基準に基づく方法により行い、その結果に基づき可否を判定します。

到達目標		対応する修了認定・学位授与の方針の番号
A	先行研究を踏まえた上で、自らの問題意識、着眼点を明らかにすることができる能力	(1)(2)(3)
B	目的に応じた研究調査を企画し、情報収集、分析方法を選定、創意工夫する能力	(1)(3)
C	目的に対して主体的に取り組み多角的に情報、資料を収集する能力	(1)(3)
D	論拠となる資料を明示して適切な分析と独自の考察を展開する能力	(1)(3)
E	研究の成果を、資料を組み合わせる適切な文章で論理的に伝える能力	(1)(3)
F	社会学・人類学・歴史学・地理学・民俗学と隣接する多様な人文科学の教養	(2)
G	個人と学問と社会の結びつきを理解し、社会人・職業人・生活人として活躍できる倫理と行動力	(2)
H	メディアリテラシーや外国語運用能力を高め、グローバルなコミュニケーションをめざすための能力	(1)(2)(3)
I	現代を射程に置いた、過去への多様な知見と、そこにアプローチするスキルや能力	(1)(2)(3)
J	人間を取り巻く空間と、そこに展開される人々の暮らしや文化に対しアプローチするスキルや能力	(1)(2)(3)

応用社会学専攻(修士課程)

[2016年度(平成28年度)以降の入学生に適用]

	授業科目名	単位数	到達目標									
			A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
必修 A	応用社会学演習Ⅰ	2	○	○	○	○	○		○			
	応用社会学演習Ⅱ	2	○	○	○	○	○		○			
	応用社会学演習Ⅲ	2	○	○	○	○	○		○			
	応用社会学演習Ⅳ	2	○	○	○	○	○		○			
	特定研究Ⅰ	2	○					○		○		○
	特定研究Ⅱ	2	○					○				○
必修 B	総合演習Ⅰ	2	○	○	○	○	○		○		○	○
	総合演習Ⅱ	2	○	○	○	○	○		○		○	○
	史学地理学民俗学演習Ⅰ	4	○	○	○	○	○		○		○	
	史学地理学民俗学演習Ⅱ	4	○	○	○	○	○		○		○	
専門科目 選択	応用社会学特殊講義Ⅰ	2	○	○	○	○	○		○			
	応用社会学特殊講義Ⅱ	2	○	○	○	○	○		○			
	家族社会学特殊講義	2	○		○		○		○	○	○	○
	経験社会学特殊講義	2	○	○	○	○	○					○
	表象文化特殊講義	2	○	○	○	○	○			○	○	
	方法論研究Ⅰ	2	○	○	○	○	○		○			○
	方法論研究Ⅱ	2	○	○	○	○	○		○			○
	方法論研究Ⅲ	2	○	○	○	○	○		○			○
	方法論研究Ⅳ	2	○	○	○	○	○		○			○
	人類学特殊講義Ⅰ	2	○					○	○	○	○	○
	人類学特殊講義Ⅱ	2	○					○	○	○	○	○
	社会運動特殊講義	2	○		○	○	○		○	○		
	地域文化特殊講義	2	○		○	○	○	○				○
	歴史学特殊講義Ⅰ	2	○			○	○	○			○	
	歴史学特殊講義Ⅱ	2	○			○	○	○			○	
	歴史学特殊講義Ⅲ	2	○			○	○	○			○	
	歴史学特殊講義Ⅳ	2	○		○	○	○				○	
	歴史学特殊講義Ⅴ	2	○					○	○		○	
	歴史学特殊講義Ⅵ	2	○					○	○		○	
	人文地理学特殊講義Ⅰ	2	○		○			○				
人文地理学特殊講義Ⅱ	2	○		○			○					
民俗文化特殊講義Ⅰ	2	○	○	○	○	○	○				○	
民俗文化特殊講義Ⅱ	2	○	○	○	○	○	○				○	
社会史特殊講義Ⅰ	2	○					○			○	○	
社会史特殊講義Ⅱ	2	○					○			○	○	

授業科目名		単位数	到達目標									
			A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
専攻横断科目	日本文学の主要問題a	2						○			○	○
	日本文学の主要問題b	2						○			○	○
	日本語学の主要問題a	2						○			○	○
	日本語学の主要問題b	2						○			○	○
	英語学の主要問題a	2						○		○	○	○
	英語学の主要問題b	2						○		○	○	○
	英米文学の主要問題a	2						○		○	○	○
	英米文学の主要問題b	2						○		○	○	○
	英米文化の主要問題a	2						○		○	○	○
	英米文化の主要問題b	2						○		○	○	○
	応用社会学の主要問題Ⅰ	2	○	○	○	○	○		○			○
	応用社会学の主要問題Ⅱ	2	○	○	○	○	○		○			○
	歴史学と地理学の主要問題Ⅰ	2	○			○				○	○	○
	歴史学と地理学の主要問題Ⅱ	2	○			○				○	○	○
	人間科学思想の主要問題Ⅰ	2						○			○	○
	人間科学思想の主要問題Ⅱ	2						○			○	○
	人間科学思想の主要問題Ⅲ	2						○			○	○
	人間科学思想の主要問題Ⅳ	2						○			○	○
	人間科学思想の主要問題Ⅴ	2						○			○	○

[所定の単位]

専門探究コース

1. 必修科目(必修A[6科目12単位]又は必修B[4科目12単位])、選択科目から18単位以上、併せて30単位以上修得すること。
2. 研究指導教員が必要と認めるときは、他専攻の開講科目(専門科目に限る。)を、専攻横断科目と併せて8単位を上限として選択科目に充てることができる。

多元教養コース

1. 必修科目(必修A[6科目12単位]又は必修B[4科目12単位])、専攻横断科目(8単位以上12単位以内)、選択科目を併せて30単位以上修得すること。
2. 研究指導教員が必要と認めるときは、他専攻の開講科目(専門科目に限る。)については、8単位を上限として選択科目に充てることができる。